

ビンセント・ニューエン司教 (Bishop Vincent Nguyen)

トロント大司教区の補佐司教 (Auxiliary Bishop of Toronto)

「私の霊的な歩み：ベトナム・ボート難民からカトリック司教となるまで」

"My Spiritual Journey - from a Boat Refugee to a Catholic Bishop in Canada"

October 31, 2010 - Scarborough Missions

講話概要 (Summary)

遠い昔の思い出なのですが、小さい頃から父方の家族が我が家に集まるたびに、叔父、叔母達は曾祖父、私やいとこにとっての曾曾おじいさんであるヨセフ・キャン・ニューエンの思い出話をしました。彼は幼い頃よりその一生をカトリックの信仰に捧げ、そのために迫害を受けました。帝国軍人に捕まり、レッドリバーの杭に括り付けられ棄教を迫られたこともあったのです。

私は幼い頃より聖職者になるのだという神様からの呼びかけを感じていました。ベトナムでは小学6年生から幼年神学校への入学ができます。ですから私は5年生の終わりが近づいた頃には自分がもうすぐ神学校に入り聖職者への道を歩み始めることができるのだとわくわくしていました。しかしその夢が1975年のベトナム戦争の開戦により崩れてしまいました。教会の土地や建物は没収、神学校は閉鎖され、神学生たちは家へ帰されました。私は傷つき、これで自分の将来の夢が絶たれてしまったと感じ、私たちの生活は一変しました。

戦後数年して、私はベトナムを離れいつの日か自分が影響を受けた司祭方と同じような聖職者になるという夢を実現したいと考えるようになりました。父は私の自由な社会へ逃げたいという気持ちを理解してくれていました。そしてある日、父と私は庭に腰掛けて私の将来について話しあいました。私が17歳の時です。父は私が本当にベトナムから脱出したいのかと尋ね、もしその道を選んだ場合は自分ひとりで数々の困難、危険に立ち向かっていかななくてはいけないし、それは容易いことでもないと言いました。私はそれでも自分はこの国を出るのだ、という決意のほどを明かしたのです。

1983年私たちの乗った長さわずか13メートルのボートは、ベトナムを出航しました。海賊に襲われてしまった時アラビア船籍の船に拾われ、日本へと届けられました。私が最初に送られた難民キャンプは長崎の大村で、その後藤沢、大阪、そして一番長くいた和歌山へと移りました。和歌山では聖ビンセント・ポール修道会の敷地内にある簡易建物で生活をしました。カナダへのビザが下りるのを待っている間、シスターたちの仕事を手伝い、日本語を学び、身体障害児の学校で児童たちの世話をするのを手伝いました。食事の世話をしたり、子供たちの旅行に一緒に行ったりもしました。

一年半の日本での生活後、それは1984年のクリスマスが近づいた頃でした。私はついにカナダ行きの飛行機に乗り込み、トロントに、先に住んでいた2人の兄弟たちと再会することができたのです。その後は高校の就学課程を終え、トロント大学工学部を卒業したのですが、思い返せば、英語・英語・そしてまた英語という、英語漬けの毎日でした。卒業した翌年の秋に司祭になるための修練期を過ごすセラ・ハウスに入り、宗教者としての人生を歩み始めました。1年間の修練期の後、聖オーガスティン神学校の5年間のプログラムに入学しました。そして1989年、私が32歳のときに司祭叙階を受け、2009年の冬に教皇様よりキリストの弟子として生きることを尋ねられ、43歳の2010年1月に司教叙階をさずかりました。

司教叙階のときの自分からのメッセージとして「あなたと共にいます」という言葉を選びました。このメッセージにより私は“神は私たち一人ひとりを愛してくださっている”のだということを世の人々に宣言したいのです。イエス様はいつの世も教会と共に居られ、信じる者のそばに最後のときまで一緒に居られることを約束してくださいました。神様はいつでも私たちの隣を一緒に歩いてくださっており、温かい慈愛と共に人生を導いてくださっています。ですから、神様を信じて安心して歩いていきましょう。